

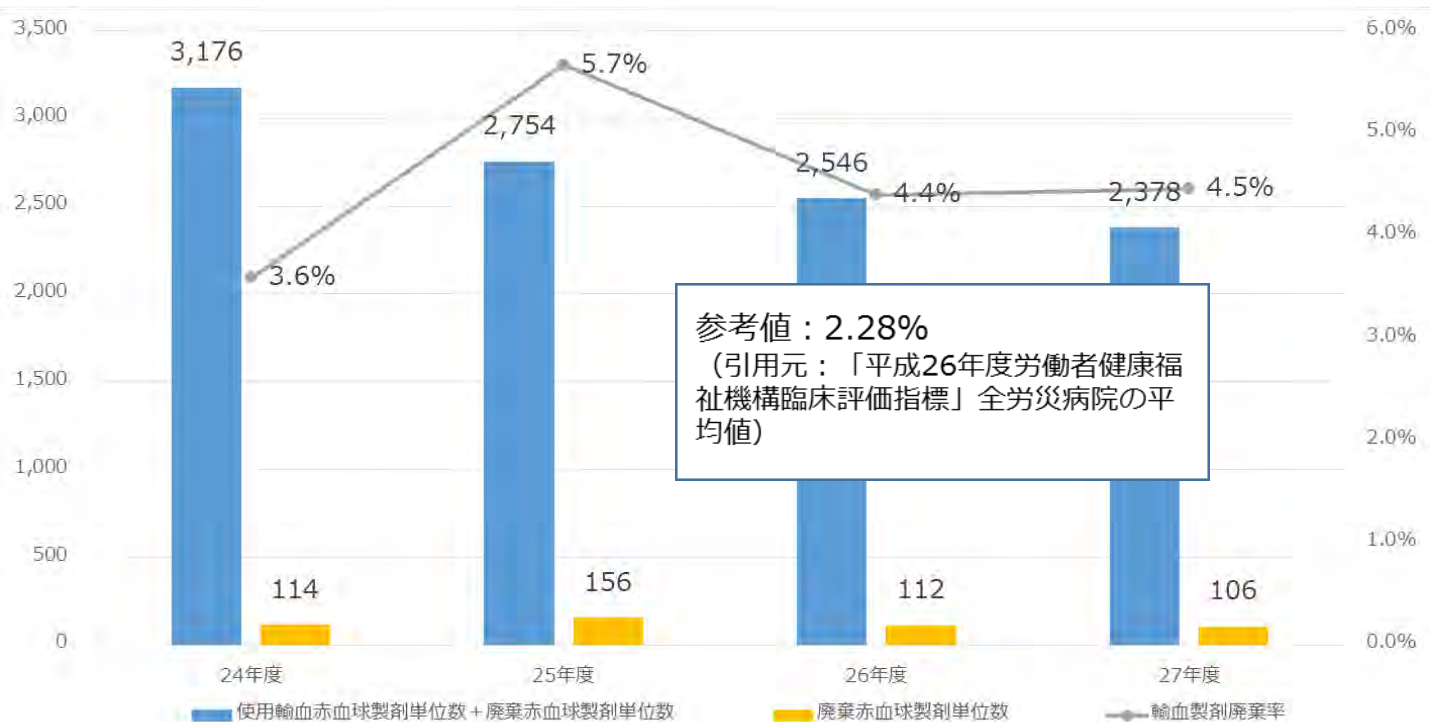
7 輸血製剤廃棄率

指標の解説

- 血液センターとの連絡、血液製剤の払出、輸血前の患者検体保管等、輸血に伴うすべての行為は、医療安全の観点から大変重要である。
- 廃棄率が低い場合には、輸血製剤が適切に管理・使用されていると評価できる。

分子：廃棄赤血球製剤単位数

分母：使用輸血赤血球製剤単位数＋廃棄赤血球製剤単位数



廃棄率低下に向けた取組みとして、T & S※を導入して廃棄数を少なくするとともに、毎月の輸血療法委員会において廃棄率を報告しているが、廃棄率は依然として高値で推移しているため、更なる取組みの強化が必要である。

※ T & S…出血量が600～800mlと少なくかつ輸血の可能性が30%以下の手術に対しては、事前に輸血に係る必要な検査を実施しておき、検査結果に問題なければ、事前の血液交差適合試験をせずに血液製剤の確保のみを行い、手術を実施すること。血液製剤の有効利用が可能となり、業務の効率化にもつながる。